

あつて当たり前になつてゐる水の存在

小学四年生の時に総合の授業で川に入りました。その川は、学校の前にある布目川といひます。そこで、水質検査をしました。結果は、飲み水には使えないということが分かりました。しかし、川の水では、比較的きれいな方でした。

私は、「飲めるおいしい水」が、どのようなものをさすのか気になり、インターネットで調べてみると、次のようなことが分かりました。本来水は、「無味・無臭」です。おいしい水とは、味を良くする成分、つまりミネラル成分が含まれているということだそうです。何も不純物を含まないものが、おいしい水ではなく、ミネラル成分が適量含まれていると、濃厚な味がすると言われています。このようなきれいな水を私たちは日常生活で当たり前のように日々使っているわけです。

天理市立福住中学校 二年

遠木 鈴華

しかし、その当たり前がどれだけ幸せなことか、理解していかない人が、いるかもしれせん。

例えば、三十年以内の地震発生確率七十パーセント、日本列島に壊滅的な被害をもたらすと言われてゐる「南海トラフ地震」が起こるかもしれない。その時、水やガスなどの生活に必要な不可欠な資源が、簡単に手に入ることができないものになつてしまいます。水が、どれだけ大切なものかももう一度見直してみてください。

皆さんは、水を大切にすることを心がけていますか。大切にするとつても、そんなに難しいことではありません。私は帰宅し、手洗いうがいをする際に、手を石けんでこすつてゐる時に、水を止めます。そして、水を出して洗い流します。本当にささいなことす

が、塵も積もれば山となります。他にも、身近にできることはたくさんあります。湯船のお湯を洗濯に利用する、洗い物をする時の洗剤の量などです。ささいなことでも、毎日続けることが一番大事なことなのではないのかと思います。

昨年秋に、学習発表会がありました。そこで、自然班の発表を聞きました。この班は「水と共に生きる」というテーマで研究したそうです。内容は、講師から聞かせて頂いたお話や、福住地区の水の調査結果の発表でした。発表を聞いて一番心に残っているのは、福住地区の水を中心に七種類の水を調査した結果です。ここでは七種類をA B C D E F Gとします。Aは、飲むのは厳しいが、農業やお風呂には使えるので比較的きれいです。Bは、全体的に見るときれいです。Cも、Bと同じでした。Dは、布目川でした。Eは、すぐくきたない水ということ、とても人が飲める水ではありません。Fは、生活排水で汚れた水でした。自然班が調査した上七つの結果から、講師としてお越し頂いた方は、「福住の水は他の地域に比べてきれいだ。」

とおっしゃっていただけそうです。検証するためには、実験もしてみたみたいです。結果から分かったのは、福住の水はきれいだということでした。私生活に関わる「水と共に生きる」というテーマの発表に、私は聞き入ってしまった。

私が住んでいる山田町に流れる布目川上流は、天理市に流れつきます。上流に住んでいる私たちが川をきれいなまま保てば、天理市に流れつく水もきれいだということです。ですが、私たちが川にゴミを投げ捨てたり、川を大切にしなければ、下流に住むたくさんの人々が困るということになります。だから、私たちが川を大切にすること、無駄にしないということ、誰でもない自分自身が水をきれいにすることに取組み、きれいなまま保つていけると思えます。水を大切にするといいことを忘れず生活していきたいと強く思いました。